

県連青六〇周年・青年会館建設三五周年記念講演



秋田の若者たちに期待する

国際教養大学学長 中嶋 嶺 雄

青年会館の利用拡大策

ただいまご紹介頂きました中嶋です。秋田県連合青年会六〇周年、秋田県青年会館建設三五周年という記念すべき機会にお話できますことに感謝いたします。

前段として、青年会館の利用拡大について参考になればと思つて私の体験をお話します。

私は、つい最近まで東京の八王子にあります「財団法人大学セミナー・ハウス」の理事長を務めておりました。私の理事長任中に創立四〇周年記念の行事を行いました、ようやく、理事長をバトンタッチした次第です。

創立当初は大学紛争もありまして、教師と学生が膝を交えて語り合う場がだんだん無くなつてきており、それは教育にとって大変な危機だということ、教師と学生の研修の場として「大学セミナー・ハウス」が設立されました。

東京女子大の事務長をしていた飯田宗一郎さんという人が一所懸命になりまして、八王子の丘に広大な敷地と斬新な建物、大地に「知」のクサビを打つということ、逆ピラミットの会館を造りました。この建物は吉阪隆正氏の設計で世界的建築家からも評価をうけた建物です。

経営は、国立大学を中心に主な私立大学も含んだ各大学が会員校になりまして、会員の会費と利用者の料金収入で賄ってきたわけです。当初は、年間四万人から四万五千人が利用しておりました。それがだんだん学生諸君のライフスタイルの変化によつて、学生が先生と一緒に宿泊して人生を語り合うということが無くなつてきて「大学セミナー・ハウス」の経営が苦しくなつてきたわけです。その時期に私が理事長を引き受けることになりました。私は、どうにかしてセミナー・ハウスを再生するという役割を負つたものから、次のことを考えました。

一つは、恒常的に稼働率を上げるに

は、どうしたらよいか。

八王子にはたくさん大学の大学があります。都心の大学が随分八王子近辺に移つてきました。今は、もう一度都心に回帰する動きがあります。

多くの大学が八王子にあるという条件を生かし「留学生会館」を造りました。約二億五千万円の留学生会館でしたけれども、あの近くの留学生は宿泊に困っているわけです。ちよつと不便な所がありますが、インテリジェント機能も付きました。月額四万五千円です。常に満杯になっております。

もう一つは、宿泊施設が老朽化してきましたので、この春に「桜会館」という新しい建物を造りました。財団法人ですから借金は一銭もないけれども、経営が苦しくて先行きが不安だということ、初めて地元の多摩信用金庫から借入れをして、色々なシュミレーションをして、新しい建物を建てたわけです。そして稼働率が非常に良くなりました。食堂をどうするかも検討しましたが、私の方針として、せっかくなのでセミナー・ハウスにきたのだから、食事を美味しくして、手作りの料理を作ろうと提案し、そのとおりにやっております。

国際教養大学もそのメンバーです。長く東京に滞在して就職活動をするとかの場合は、ちよつと不便ですが利用できることになりました。会員校は、一泊四五〇〇円で利用できます。今、各大学とも生き残りをかけてSD(スタッフディプロメント)の講座を設けて、

色々凌ぎを削っておりますが、そういう人々にも利用してもらおうようにしました。学生だけでなく、一般の学校関係者にも門戸を開いて利用の呼びかけをしましたら、これで大丈夫という稼働率になりました。

いま一つは、地域との連携です。「炭焼きセミナー」や小学生を集めて「野外の理科教室」をしたり、色々工夫して地域との連携に努めております。

青年会館もこれだけ立派な施設がありますから、経営の仕方によつては色々な可能性が考えられるのではないかと思います。現在、教育再生会議でも議論しておりますが、教員免許が問題になっております。免許更新制、いわばダメ教師をどうするかですが、一月には中間報告を出します。

一方では、教員免許を取っている人は三〇万人ほどおります。そういう方をどうやって研修するのか、もちろん県には県の研修施設がありますけれども、それだけでは足りないし、もっと民営化された研修機関が必要です。一体どうやって研修するかは、これから教育再生会議でつめることになっておりますので、そういうことをターゲットにして、この秋田県青年会館の研修施設をリバイバルすることも考えられますので、本題に先立ちまして、自分の経験をこ披露させて頂きました。

一つは、恒常的に稼働率を上げるに

話題の変更

「秋田の若者たちに期待する」というテーマでしたので、若者が多ければ、秋田県が生んだ内藤湖南(鹿角市毛馬内出身)と、内藤湖南を京都大学に招いた狩野亨吉(大館市出身)の話をしようと思いましたが、本日は若者が少ないので簡単にいたします。

内藤湖南が、米代川のほとりをつたわって秋田の師範学校の受験に来た苦労話も知っていますし、秋田師範を卒業し、やがて大学者になります。京都大学の教授になるときに、師範学校卒だけで帝国大学の教授になることを文部省は許さなかった、それを、大館出身の狩野亨吉が二年間講師にして内藤湖南を迎え入れたわけです。

そのため京都大学を中心とする、我が国の人文学、教養教育が開花したわけです。狩野亨吉は、初代旧制第一高等学校校(現東京大学)の校長にもなっていますし、そういう話を若者向けにしようかと思っておりましたが、皆さん既にご存知だと思いますので、話題を変えて、私共の大学が、なぜ秋田で新しい試みをしているか、また、英語とか中国語、つまり外国語はそんなに恐いものではないということをお話したいと思います。

国際教養大学の設立

秋田県が国際系の大学を作る作らないが、県政の課題であったと伺っています。それだけに、私共は緊張感の

上に、大学を設立することになったわけです。

私が、東京外国語大学の学長時代に当時副知事でありました坂東久美子さんが見えまして、秋田県で今こういう試みがあるので、是非、創設準備の委員会に入って欲しいとの依頼がありました。そして私はその座長となったわけです。

色々検討しているうちに、一体、これから大学を作るとは何ごとかと思えました。少子化で若者の数は減っていき、日本は大学が多すぎる。本当に勉強する大学はともかく、ほとんどの大学がレジャーランドになっている。そうした状況の中で、県立大学があるのに、それに加えて新しく大学を作るとは何ごとかと思ったわけです。

しかし、一方では、これまでの日本にないような本当にこれからのグローバル化時代を担うことができるような大学だったら、作る必要があると思いたわけです。日本にはそういう大学がないのです。そこで色々検討の結果、新しい国際系大学のコンセプトが出来ました。しかし、一旦、県議会でも否決されて、この話はもう無くなったと思っていたら、知事選挙があり寺田知事の熱い情熱もあって、秋田に国際教養大学を作ることが決まったわけです。

しかし、私は、そう簡単に大学というものは出来るものではないので、もう一年待つて欲しいと申しましたが、ミネソタ校が閉校になった後、どうするかということもあり、結局は思い切

ったことをやろうということになりました。

全ての授業を英語で

思い切ったことの一つは、全ての授業を英語でやるということです。

日本では、六三〇前後の大学がありますから、その中で一つくらい全ての授業を英語で行う大学が是非必要ではないかと考えたわけです。

これからまさに若者達は、世界の中で活躍しなければいけない時代です。せっかく、英語を学んでいながら、学んだ英語が使えないまま若者を世に送り出している。そんなことでいいだろうか、という危機感と反省からであります。

大学の名前

その頃は、まだ大学の名前が決まっておりませんでした。はじめは、北東アジア大学とか東アジア大学など色々な候補がありました。結局、最後に四つの名前が残りましたが、県民の意見も聞いた上で、私自身が決断をしなければならなくなりました。

その時にどう決断をしたか話しますと、私は、たまたま故郷の松本にありました「松本音楽院」の第一期生で、今でも生涯の糧としてバイオリンを弾いております。鈴木鎮一先生に率いられた「松本音楽学院」はやがて才能教育研究会となり、いまや全世界に幼児教育のスズキ・メソッドとして広がっています。たまたま、才能教育研究会

の鈴木チルドレンが、ベルリンで演奏会を行うことになりました。鈴木鎮一

さんの一番弟子であります豊田耕児さんと私と子供達一〇人で演奏会を行ったわけです。大変好評でした。その時にお母さん達四人がついてきましたので、お母さん達に、「もし、あなたの子供さんが秋田にできる国際系の大学に入るとしたら、どの名前がいいですか」と訪ねたら、四人共一致して、「国際教養大学」がいい名前だと言ってくれました。私はそういう意向も伺いながら「国際教養大学」に決めました。

委員会では、国際教養ではわからないとか、疑問もありました。しかしながら、教養教育が非常に問われている、英語で授業することは、何も口先だけで英語ができることを目指すのではない。それだったら、東京ではノヴァとか駅前の英語学校がたくさんあるわけです。そうではなくて、本当の教養を身につけた人材が必要である。そういう若者が日本にもっといてくれなければいけない。そういう気持ちから、インターナショナル・リベラルアーツ。まさに、狩野亨吉や内藤湖南が、明治から大正にかけて考えた、現代版だと思います。そんな考えから、大学名を決めたわけです。

皆さん、お気づきかもしれませんが、日本の国立大学八十七校、公立大学七十八校、全ての国公立大学は、名前に地名あるいは地域名をつけています。例えば、東北大学、東京大学、北海道大学、札幌市立大学というようにです。